

回線計画支援システム

変化する国際通信のトラフィック需要を的確に把握・分析・予測し、迅速に国際通信ネットワークに反映させるため、回線計画支援システムを 1991 年（平成 3）に開発した。さらに、トラフィック需要に応じたネットワークを設計する伝送路網計画支援システム「STREAM」を開発した。STREAM を用いることにより通信設備や回線を増やす計画が簡単に策定できるようになり、商用回線の計画策定に利用された。作業用端末としては操作性の優れたマッキントッシュが採用され、高速の計算処理には UNIX マシンを導入、相互に接続されている。のちに機械を拡張して ATM 網の設計ツール「APOC」が開発された。

出典：KDD 社史